

単元名 今を生きる私へ(絵や彫刻など)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 構図や顔の角度、表情やしぐさ、背景や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、自分の印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。材料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表すことができる。
- (2) 自分の姿を深く見つめ感じ取ったことや心の内面などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分の姿から感じ取ったことや心の内面などを基に構想を練ったり、構図や表情など意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

12270202_001

【準備等】画用紙、加工粘土、新聞紙などの紙類、粘土板、へら、鏡、参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具、色鉛筆、絵の具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考作品を鑑賞し、作者の心情や表現の意図について話し合う。 ★作品のイメージや印象から感じたことを発表しよう。 様々な構図や背景、色彩の工夫を知る。 <p>2 自己と向き合い、主題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★心の内面や顔のイメージを基に主題を考えよう。 自己と向き合い、自分の生き方と照らし合わせながら、自分の気持ちや性格、夢や思い出などについて考え、主題を生み出す。 主題を基に構図や色彩などを試行錯誤し、創造的な構成を工夫して構想を練る。 <p>3～6 主題を基に制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★主題を基にして、制作しよう。 材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表す。 <ul style="list-style-type: none"> 表現方法の特性などから効果的に描いたりつくったりする手順を総合的に考え、計画を立てて表す。 <p>7 鑑賞会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★友達作品を鑑賞して、自己の作品を振り返ろう。 自分や友達作品を鑑賞し、その心情や表現の意図と表現の工夫などについて考え、発表し批評し合う。 表現や鑑賞の活動から、自己を深く知り人生観と関わらせながら新しい価値をつくりだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の生きた時代や社会的背景など一層幅広い視点から捉えさせる。 参考作品や表現方法の工夫を提示しながら形や色彩、材料などに視点を当てさせる。 【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え構想を練り、意図に応じて創意工夫して表現の学習に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 鏡を見て表面的に捉えるだけではなく自分自身の気持ちや心の中を見つめさせる。 【評】形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、表情や印象など全体のイメージで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 これまで学んだことも生かせるよう資料提示や言葉かけを工夫し生徒の表現意欲を高め、自分の意図に合う表現方法を模索させる。 【評】心の内面や自分の姿を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想いなどの心の世界などを基に主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 生徒がどのような考えでその手順を行っているかを正しく見取り、制作意図がより美しく効果的に生かせるよう考えさせる。 【評】絵の具や用具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 作者の内面や生き方、作品の構成や表現方法など、そのよさを深く感じ取らせる。 主題に基づきながら自分の作品についての過程を振り返らせる。 【評】美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、表面的に捉えるだけではなく、自己と向き合い生き方や気持ち、夢や思い出などから深く自己を理解し、自分の感情や物の考え方、価値観に気付くことができるようにする。過激な表現に偏重するのではなく自分の生き方と照らし合わせて表現することの意味や創造的な工夫を考えさせたい。表現の活動を通して、自己の夢や目標を形や色彩、材料などによって具体的な形としてつくりだしたり可視化したりすることで、自己の肯定的認識を高め、未来へのあこがれなどを思い描き自己挑戦し続けながら、自己実現を果たしていく意欲や態度を養うことが大切である。